

平成26年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立加茂小学校

<p>教育目標(めざす児童生徒像)</p> <p>自ら学び取り、友と歩む心豊かな子どもの育成 ・目標を持って行動する子ども ・最後まで仕事をやり遂げる子ども ・仲間を大切にできる子ども ・礼儀正しく素直な子ども</p>	<p>今年度の指導の重点</p> <p>つながりを育む指導と学習習慣の定着 主体的な学びで学力をつけ、友と学ぶ喜びをもたらす指導 健全な心と健康な体をはくむ指導</p>
---	--

<p>調査結果について(調査結果において明らかになったこと)</p>	
<p>【学力状況調査の結果】</p> <p>国語A・B、算数A・B全てで全国(県)平均を下回った。 国語・算数ともA問題は、全国と同様の得点分布をしている。A問題全問回答者が、全国と比較すると約半数の正答者数であるため、正答率が全国を下回った。B問題においては、国語・算数とも正答率が高い児童が少なく、低い児童が多いため、全国と比較し、正答率が大きく下回る結果となっている。 国語Aの漢字の読みはまずまずであるが、書きの「祝う」は大きく全国平均を下回った。故事成語は、十分学習が身につけていない。国語Bでは、2問を除いて、全て全国平均より正答率が悪かった。また、Bの設問の中には無回答が多かった。 算数Aの数と計算、量と測定の2領域は、ほぼ全国平均であったが、図形、数量関係の2領域がどちらも全国平均を下回った。 算数Bでは、最大値に着目すると棒グラフが枠内に表せないことを記述する問題に課題がある。(本校55.6%、岡山県69.1%)</p> <p>国語Aでは、国語辞典を使って言葉の意味と使い方を理解する問題の正答率が高い。(本校82.2%、岡山県75.0%) 算数Aでは、示された分数の中から1/2より大きいものを選ぶ問題の正答率が高い。(本校82.2%、岡山県70.6%) 算数Bでは、最大値に着目すると棒グラフが枠内に表せないことを記述する問題に課題がある。(本校55.6%、岡山県69.1%)</p>	<p>【学習状況調査の結果】</p> <p><良かった点> 将来の夢や目標を持っている。 普段30分以上読書をしている。</p> <p><課題となる点> 朝食をとらなかつたり、早寝早起きのリズムが崩れたりしている。 平日、休日とも家庭学習の時間は少なく、テレビやゲームをしている時間(3時間以上)が長い。 失敗をおそれる傾向があり、自己肯定感が低い。</p>

<p>成果と課題</p> <p>家庭学習で予習や復習をしている児童が少なく、家庭学習の時間も短い。 漢字や基本的な知識の定着が図れていない。 立方体・直方体の体積の問題に、少人数指導の成果が表れている。 読解力の欠如による文章題に対する苦手意識が強いようだ。 知識・理解を活用する課題が苦手である。</p>	<p>課題に対応した改善方法</p> <p>低学年1時間、高学年1時間30分の家庭学習を目指す。 これまで続けている朝自習や計算グングン週間の取組を見直し、弱点を重点的に取り上げ、系統的なプリントを作成し、繰り返し実施する。 漢字学習の繰り返しだけでなく、漢字検定の導入や校内検定の実施などで意欲づけをする。 読書活動を積極的に推進する。 思考力・判断力・表現力を育成するため、言語活動を学習に取り入れる。</p>
---	---

<p>取組の検証方法及び検証時期</p> <p>単元ごとのテストを学年ごとに集計し、検証を加え、課題を見つける。 家庭学習時間について毎学期ごと(年3回)調査する。</p>	<p>達成目標(数値目標)</p> <p>単元テスト結果が平均80%以上にする。 家庭学習が1時間以上の児童生徒の割合を上げる。</p>
---	---